

図3 生涯の各時期における生涯教育の課題

時 期		1 乳 幼 児 期 0 ~ 5 歳	2 少 年 期 6 ~ 15 歳	3 青 年 期 16 ~ 24 歳
主 要 学 習 課 題	①健康の増進・体力 づくり	(ア)心身の健やかな成長 (イ)交通・安全、食習慣の形成	(ア)健康・体力の増進 ー運動の日常化ー (イ)交通・安全、衛生、食習慣の形 成	(ア)健康・体力の増進 ースポーツ活動、スポーツ団体 への参加ー
	②人間形成上の基礎 基本の習得	(イ)信頼感、自律感の確立	(ア)基本的な生活習慣の形成 (イ)基礎学力の習得 (ウ)自己教育力の獲得 (エ)活動性、自発性の発揮	(ア)公民としての資質の向上 (イ)自己の確立
	③職業・技術の学習 ・訓練	(ア)仕事への興味・関心の喚起	(ア)自己の適正の理解と進路選択力 のかん養 (イ)勤労の尊重と生産活動の体験	(ア)勤労観の確立と生産の喜びの体 得 (イ)職業観の確立 (ウ)職業についての知識・技術の修 得
	④文化的活動による 自己充足	(ア)文化活動の体験	(イ)余暇活動の充実	(ア)文化の継承と創造 (イ)生活文化の修得
	⑤市民的生きがい創 造	(ア)正しい判	断力の獲得 (イ)仲間意識の高揚	(ア)地域連帯意識の高揚
	⑥郷土理解と国際理 解	(ア)地域の行事への参加 (イ)地域の自然との接触	(ア)郷土のおいたち理解と行事への 参加 (イ)郷土の自然の愛護 (ウ)国土の理解と愛護 (エ)外国事情の理解	(ア)郷土の歴史・地理についての理 解と文化的行事への参加 (イ)自然の愛護
	⑦高齢化社会への対 応	(ア)敬愛心、いたわりの心のかん養	(イ)余暇活動と仲間づくり (ウ)他世代との交流	
主要教育課題		① 家庭教育の充実		
		② 学校教育の充実	② 青年団体活動の奨励援助	
		③ 青少年の健全育成		
② 集団活動の促進		④ 異年齢集団活動の奨励援助	④ 青年団体リーダーの育成	
		⑤ 野外活動の奨励		
		⑥ 少年団体活動の奨励援助		

〔婦人〕

(イ) 職業的能力の開発と向上に努めるとともに、職業を通じて自己の生きがいを見いだすとともに、心の豊かさを養う自発的学習活動を行うことのできる条件整備が企業内教育や現職教育との関連の中で推進される必要がある。  
 (ウ) 青少年の健全育成、地域文化の伝承、奉仕活動、環境美化活動等地域社会活動に積極的に参加し、住民相互の連帯のもとに推進する必要がある。

社会経済の激しい変化の中で、家庭生活の変化に対応するため、生活にかかわる基本的な学習の必然性が生じている。  
 一方社会では、人間疎外の事象が深まりつつある現状において、